

学校関係者評価報告書

2023年3月13日

2022年度 大麻藤認定こども園 自己点検・自己評価

1・大麻藤認定こども園の教育目標

- ・自分を信じ、自分を愛することができる子ども
- ・思いやりや感謝の心を持てる子ども
- ・主体的に、生き生きと生活できる子ども

「自分でしたい！」を大切に、
「自分でできた！」という喜びを積み重ねることにより、
主体的に生き生きと人生を歩んでいくための力を養います。

2・学校評価の具体的な目標・計画

評価項目に沿って自己点検、自己評価を実施することによって、教師自らが客観的に自園を見る目を養い、施設の改善、教育内容の改善に主体的に取り組み、保育の質の向上に繋げる。 2022年4月

3・評価項目の達成および取り組み状況

〈今年度の経営の重点〉

- 保育の質の向上のための研修計画
- 幼保連携型認定こども園としての人員配置と経営の安定
- それぞれの役割の明確化

4・学校評価の流れ

12月	教職員へのアンケートを実施し集約する。
1月	保護者へアンケート実施。 自己評価書の作成。
2月	学校関係者による評価実施。
3月	アンケート結果の公表、次年度に向けての方針提示。

5.自己評価集計結果

A:5 十分達成している B:4 達成している C:2 取り組まれているが成果が充分ではない
D:1 取り組みが不十分である

自己評価については、各評価項目について達成状況を ABCD 評価し、数値化することでより明確になり意識化を図ることができると考えた。

分野	達成状況
教育及び保育方針、教育・保育計画	4.0
教育・保育内容	3.8
保育教諭の資質の向上	3.5
子どもの健康及び安全	4.2
特別支援教育	3.4
食育の推進	3.9
小学校との連携	2.9
開かれた園づくり	4.0

達成状況としては、おおむね良好であったと思われる。コロナ禍にあって、小学校との連携、特別支援教育、保育教諭の資質向上を進めていくことが喫緊の課題と思われる。以下に評価項目の自己評価をもとに次年度に向けて改善方を記載しています。

分野	評価項目	自己評価
		改善の方策
教育及び保育方針、教育・保育計画	園の建学の精神にあるキリスト教の理念に基づいた園の教育・保育理念や目標及び重要事項を理解している。	今年度は園長が交代、新採用の保育教諭が加わった。また、認定こども園に移行して3年経過し、日常生活リズムや保育活動が定着しつつある。今後においてもキリスト教の理念、教育目標について理解を図ると共に園児の安全を第一に安定した自園の教育・保育に対して教職員が共通理解する中で進められるよう研鑽を深めていく。
	園の教育・保育理念及び目標とこども園教育要領の関係を理解し、子どもの生活実態に即した計画作成に努めている。	現状の子どもたちの状況を把握しながら、その都度、保育計画を見直して実施することができた。計画立案に関しては、経験の浅い保育教諭の考えを尊重しながら、経験のある保育教諭が助言し教職員間で課題を共有し連携して進められるようにする。
教育・保育内容	0歳児から就学前までの一貫した教育及び保育を、園児の発達や学びの連続性を考慮して展開している。	今年度2歳児クラスでは、先を見通した保育内容を考えて進めていくことができた。合同会議で交流する中で、乳児クラスから幼児クラスへの移行にハードルの高さを感じており、定期的に乳児・幼児の担当者が情報の共有をはかり、更に、乳児から幼児への保育の繋がりを考えて理解を深めていくことが大切である。
	在園時間が異なる多様な園児がいることを踏まえ、園児の生活が安定するよう、家庭や園における生活の連続性を確保し、1日の生活リズムを整えるよう工夫している	2・3号認定児は食事や睡眠など、個々の状況にあった対応をすることが出来た。異なる登園時間の中でも工夫して遊びの時間の確保をしたり、基本的な生活習慣の自立に向けて援助したりしてきた。家庭との連携の大切さを感じつつ、子どもたちにとって何が大切かを考えた保育を進めていくことが大切である。
	園児一人一人の人格を尊重し、安心感と信頼感をもっていろいろな活動に取り組めるよう適切に働き掛けている。	年齢に応じて丁寧に個々と関わったり、過度に関わりすぎず見守ったりと信頼関係を気付くことができるように配慮してきた。一人の子どもの対応について、担任だけではなく保育教諭間で共有し連携を取ることが出来た。 虐待のニュースを耳にして、より一層信頼される園に向けた取り組みが大切である。
保育教諭の資質の向上	キリスト教の教えを学び、乳幼児に伝える指導法を研究する。 また、日常的に神さまの存在に触れるよう伝え、年齢に応じて宗教講話や神様の話をしている。	乳児から散歩のときにマリア様に「行ってきます」をしたり、戸外で摘んだ花をマリア様の前に飾ったり、また、食事の前に手を合わせ食への感謝の気持ちをもつことが始まりであると感じている。幼児では神さまの存在が、人としての大切なことを学ぶ時間として、気持ちの伝え方を学んでいる。引き続き、年齢に応じた対応を心掛けて伝え方を工夫していくことが大切である。
	組織の一員としての在り方として、当番や役割による仕事は確実にやり、皆で助け合いながら進めている。	自分の仕事の役割については、個人の見解の差はあるが責任を持って進めることが出来ている。今後は決められた役割以外でも、急な対応や欠勤が出た際の仕事の分担などを一人ひとりが自主的に進めていけるようにする。
	資質の向上を図るため、主体的、計画的に研修会に参加し終了後は研修報告を提出し還流を行っている。研修のみならず、自ら調べたり、本を読んだり等自己研鑽に努めている。	リモートでの研修の機会が増え、逆に移動時間もなくなり研修には参加しやすくなったが、勤務時間内で研修に参加することが難しいところもあった。研修で学んだことを園内研修として共有したり、自分で学びたいことを明確にしたり、積極的に学びの機会とすることが大切である。

分野	評価項目	自己評価
		改善の方策
子どもの健康及び安全	新型コロナウイルス感染予防対策では、様々な情報を整理しながら教職員と話し合い、衛生管理に努めている。また、保護者と連携を取りながら体調管理に努めている。	二回の閉鎖措置を余儀なくされたが、日々変化していく情報を把握して対応していく難しさはあった。関係機関への報告、対応にも慣れて、園内の役割分担を行うことで適切な対応が出来ていたと思う。予防に向けた対策を話し合い、自分たちで出来る消毒作業は丁寧に進めることができたが、職員の作業量が増えて負担が大きくなった。また、保護者の方へ協力を依頼することも多かったが、家庭の事情がある中、無理な登園を控え保育に協力をしていただけ、柔軟に対応していただけたことに感謝している。
	保育に制限の多い中、積極的に戸外で体を動かせるよう、外遊びの時間を確保し、四季の移り変わりを感じられるよう配慮している。	出来る範囲で戸外遊びを取り入れ季節を感じて楽しむことができた。隣接する公園の木々が四季の移り変わりを感じさせてくれる環境であることが貴重である。次年度は園外保育や水遊びを思い切り楽しみたい。
	常に事故防止に努め、睡眠中、水遊び中、食事中、園外保育中等の場面では重大事故が発生しやすいことを踏まえ、園児の主体的な活動を大切にしつつ、施設内外の環境の配慮や指導の工夫を行い、必要な対策を講じている。	午睡中の見守り、食事中の誤飲、園外での安全など、教職員の配置や事前確認を共有して行うことが出来ている。乳幼児の事故のニュースも後を絶たないが、重大事故があったときには、自園だったらという仮定のもと対策を講じていく。特に、園バス登降園時の園児への対応について、職員が連携して丁寧に行うことができた。
	万が一、怪我や事故が起きたときは、その発生状況の問題提起をし、教職員で話し合い再発防止に努め、記録に残している。	今年度は、救急車を要請する事案があったが、その都度、対応について情報の共有や連携を図ることができた。また、怪我があった際は振り返り、再発防止について話し合っていく。怪我の大きさに関わらず、ヒヤリハット報告書として記録に残していく。
	事故の発生に備え、自然災害や不審者侵入に対する訓練を行い、反省点を洗い出し改善を図っている。	月一回、様々な想定での訓練を行い、どのような状況でも教職員が自分の行動を的確に判断できるように取り組んでいる。また、その都度、反省会を行い次に生かしている。
特別支援教育	特別な配慮を必要とする園児は、集団の中で生活することを通して、共に育つことが出来るように組織的に指導方法を共有している	家庭、園、療育機関と連携を取り、同じ方向で子どもの育ちを見守ることが出来るように引き続き進めていく。保育教諭間でも情報の共有を徹底し、細かい変化にも気付き育ちに生かせるようにする。しかし、共有の仕方を工夫しないと会議が長くなって勤務時間に影響が出ている。園内研修を行い支援が必要な場面において教職員間でどのような対応が良いのか役割を検討する機会があり、連携の在り方を共有することができた。
	家庭、地域及び医療や福祉、保健等の業務を行う関係機関との連携を図り、長期的な視点で園児への教育・保育支援を行うために、個別の指導計画を作成している	江別市の関係機関と巡回相談等を活用し連携することができた。民間の支援施設、関係機関とは出来る範囲の中での連携は出来たが、保護者への働きかけが難しい。個別の指導計画は作成され、日々の保育の中で共通認識を持って生かされた。しかし、タイムリーな対応を考えたいときに、時差が生じることが多く残念だった。江別市の地域情報の知識を保育教諭全体で共有していく。
食育の推進	園児が生活の中で、意欲を持って食に関わる体験を積み重ね、食べることを楽しむことを大切にしている。また、必要なマナーも伝えている。	食事の時間は楽しい時間となることを大切にしたいが、コロナ感染の心配もあり、今後の在り方を検討していく。行事食は管理栄養士の配慮もあって、見た目の工夫があり、旬のフルーツ希望を取るなど、子どもたちの意見を反映したことにより、子どもたちが主体的に食事する意識を高めることができた。今後も管理栄養士と関わりを持ち、保護者の給食試食会や食の講座などの機会を企画したい。

分野	評価項目	自己評価
	改善の方策	
食育の推進	乳幼児期にふさわしい食生活が展開されるよう、年齢や個々に応じた適切な援助を行っている。 また、保護者との連携も図っている。	個々の食への嗜好に対応し、継続して援助している。年度末になり、成長に伴い食べる量や食材が増えてきているのを実感している。食事に課題のある園児に対して、保護者と食具の使用や食事量について家庭と連携して同じような関りをするのが望ましいと思われる。
	給食会議は、園長、乳児担当、幼児担当、管理栄養士、外部委託会社社員が参加し、適切に開催し食の向上に努めている。また、記録も整備している。	担当ごとに意見を出し合い、改善すべきところは管理栄養士を通し連携を取ることが出来ている。会議以外でも栄養士と話をして、日々気の付いたことは伝えることができ、相互連携ができていた。今後においても、食の向上に努め食育を推進する。
小学校との連携	小学校訪問・交流などで小学校教育への接続を図るとともに、「幼保連携型認定こども園園児指導要録」を作成し、就学する子どもたちへの不安を取り除けるよう丁寧な引継ぎを行っている。	コロナ禍により園全体で取り組むことを見合わせたものもあった。また、年長児のスムーズな就学に向けて、小学校訪問は今後復活させたい。就学に向けての引継ぎは電話が主流になっているが、教育委員会と連携して園生活の様子を参観してもらいながら、個々の園児の様子について丁寧に引継ぎを行い、伝えることは出来ている。
開かれた園づくり	コロナ禍であるが、園だよりやホームページ、行事参観、懇談などを通して園の情報を広く公開するとともに保護者の声にも耳を傾け、双方向に開かれた園づくりに努めている。	ブログは通常保育期間は毎日更新し、園の様子の公開に努めている。出来る限り園の様子を伝える努力をしてきた。今後は、コロナとの共存の方向になっていくと思うので、感染状況を見ながら保護者の園訪問の機会をつくり、人数制限や回数を増やすなどして、参観懇談の機会を設けていく。
	保育の専門性を活かし、地域の乳幼児が健やかに育つ場所の提供をしている。またその保護者にも交流の場や子育ての情報提供が出来よう努めている。	コロナ禍で休園となって未就園児クラスの開催回数が減り、参加できない方もいたと思われる。その中で出来る限りの場の提供が出来たと思う。家庭以外で遊びの場を確保することが難しい状況なので、今後においても保護者の閉塞感を解消するためにも魅力的な場の提供が出来、開かれた場所となると良いと思う。
	園の評価結果を公開することにより、透明性を図り信頼される園を目指している。	引き続き、信頼される園づくりを目指していく。

<p>自己評価における意見、感想</p>	<p>自己評価をすることで見えてくることがある。自分の中で足りないところ、達成されていることが明らかになり、次年度の保育へ繋がっていくことが出来るようにしていく。</p> <p>教職員間はそれぞれの役割に応じて、協力しながら保育を進めていくことができています。</p> <p>自分の仕事に責任をもって行っているが出来ないところも多く周囲のサポートによって賄われていたことに感謝している。もう少し自分で気付いているところに手を伸びるようにしたい。</p> <p>子どもたち一人ひとりとのかかわりを大切に、「園が楽しいあんしんできる。」と思ってもらえるように努力したい。園としては、教職員の転入によりカトリック園、こども園としての体制整備、一人ひとりの学びを今一度見直し個人の学びの目的意識を高め保育の質の向上に努めたい。</p> <p>コロナ禍の3年間から4年目になる2023年度は、コロナとの共存から、新たな取組を探りながら進めて行きたい。</p> <p>自由遊びの充実に向けて取り組んでいきたい。</p> <p>情報発信の工夫やICTを活用した情報提供(ブログ、ホームページ、動画等)、子どもたちの生の姿を見る機会(保育参観、行事)、保護者同士の交流(懇談会)など出来ることから進めていけたらと考えている。</p>
----------------------	--

6・学校関係者評価委員会の意見

1 アンケートの結果について

- ・保護者の方の満足度が高いのが伝わってきます。毎日のブログ更新、連絡帳の活用は大変な作業ですがこれからも続けていただきたいです。
- ・コロナ対策を取りながらの保育事業がどんなに大変なことか私の想像以上だと思います。その条件の元、先生たちの日々の努力の結果がアンケートの返答に如実に表れていると感じました。また、園児たちにカトリック的な心が育っていることを親の方々が感じていらっしゃるのも教会関係者としてとても嬉しく思いました。
- ・全般的に高評価を得ている印象です。アンケートの回収率65%は園経営に関わるみなさんにとっては不満もあるかとは存じますが、共働き家庭の増加や日常の忙しさ、子育て世代の考え方の多様化等により、様々な意見がある今日ですから、65%の回収率は十分かと思えます。
- ・質問項目については3つですが、妥当だと思います。貴園の特色は、カトリックの宗教的情操教育、保育活動の充実・行事を通して豊かな心の醸成ですから、保護者はどの場面からも意見を述べる事が可能です。毎年同じ項目ですが、この質問項目を変更する必要はないと考えます。
- ・大部分の保護者の意見は貴園に好意的です。感謝と満足の笑顔が浮かんできます。これは貴園で働く所属職員全ての皆さんの前向きな保育教育への取組に他なりません。
- ・貴園に通う園児たちの「はつらつとした子どもらしさ」「保育者とかかわす何気ない言葉のやり取り」「保護者の貴園への全幅の信頼と安心」等がアンケート結果の文章から感じ取れます。素敵なかども園を運営されているなど感じしております。大麻藤の教育力が花開いているからこそと感じています。

2 自己評価の結果について

- ・冷静な自己評価にプラス自己肯定で行きましょう。
- ・自己評価の持つ狙いが職員に周知され、意欲的な自己評価がなされていると思います。
- ・五段階評価でチェックは難しいのですが、達成状況を少数第一位まで表示して意欲喚起しているのが良いと思います。次年度への取組が見えてきます。
- ・自己の役割を自覚し協力的な保育体制を構築していくことは、言葉では簡単ですが実践ではなかなかうまくいきません。価値観も性格も人間性も異なる教職員集団で力を合わせる事の難しさは十分に分かります。貴園の地道な取り組み、反省に基づく次年度への展望づくりに敬意を表します。

3 その他の園に対するご意見

- ・コロナ禍にあって制限の多い中、子どもたちの良き成長のために工夫、努力なさっているのを感じます。運動会では職員の方々みなさんが細かく心配りをなさっていました。聖堂から園庭で遊んでいる園児たちを見るのが何よりの楽しみです。
- ・3年間のコロナ共存のこども園運営は大変だったことと思います。携わった者だけにしかわからない気苦労や即決即断が求められる判断の重さ、日々の充実した保育活動や行事ができないもどかしさの中で結果が求められる切なさ、常に感染の恐怖にさらされ保育者の欠員を如何に埋めていくかに心配りの日々、感染予防対策と、行動制限依頼を保護者をお願いする文書、ブログや「てのりの」配信等。園運営の困難さを味わいつくしたことと拝察いたします。
- ・「子どもの笑顔は親をもかえる。」の気持ちで大麻藤の教育をより向上させてください。

7・財務状況

23.1.24 公認会計士の監査を受け、業務処理等については適切に処理されており問題なしと報告されております。